

令和4年度 奈良県立法隆寺国際高等学校 学校評価総括表(年度末報告)

年度	令和4年度(中期計画1年目)
本校の使命(スクール・ミッション)	県立高等学校唯一のユネスコスクールとして、自ら学び、考え、実践できる次代の担い手となり、社会に貢献できる人間の育成
年度重点目標	①学習意欲を高め、自ら正しく判断・行動し、心身ともにたくましい生徒を育成する。 ②規範意識の向上と基本的生活習慣の確立を目指す生徒を育成する。 ③お互いを認め合い、人権を大切に生徒を育成する。

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針 (スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 1 学びの楽しみや学びの意義を見つけ、生涯学びつづけようとする生徒 2 自他を敬愛し、未知なるものにチャレンジしようとする生徒 3 自分の進路や夢を実現し、社会に貢献しようとする生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	○基本方針 1 すべての教育活動における「基礎・基本」の徹底を図り、社会生活を営む上で必要な「知識」を身に付け、進路実現に必要な「学力」を習得し、「自分の力で生き、社会を支える力」をもった生徒の育成を行います。 2 「基礎・基本」の徹底のために、各教科・科目の「ねらい」を明確化し、基礎となるもの及び基本となるものを明らかにして、「学力」の向上を図ります。 3 各教科・科目の連携を図り、組織的・系統的な学習を行うとともに、学習内容や教材の精選に努め、指導方法の工夫を行い、効果的な学習指導を展開します。 4 学習環境を整備し、学業規律の確立に努めるとともに、計画的な学習習慣が身に付くように生活面の指導充実を図ります。 ○実現のための教育 1 すべての学科において、ICTを活用した学習の充実に努め、生徒の個性に適した学習指導の展開を図ります。 2 普通科においては、第2学年から生徒の進路希望に応じ、文型・理型の2類型と選択科目を設定します。 3 歴史文化科では、「教育課程特例校」として体験学習や臨地学習も取り入れた特色ある専門科目を設定します。 4 総合英語科では、異文化理解を深め、世界に情報発信できる語学力の向上を目指す特色ある専門科目を設定します。 5 各学科の特色を生かし、県立高校唯一のユネスコスクールとしての取組を進めます。 6 学校行事や課外活動、ボランティア活動などを通して、主体性と協働意識、他者尊重と社会貢献の精神を涵養します。
	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	本校では、卒業までに、以下の資質・能力の育成を目指します。 1 学びの楽しみや学びの意義を見つけ、生涯学びつづけることができる。 2 自他を敬愛し、未知なるものにチャレンジできる。 3 自分の進路や夢を実現し、社会に貢献できる。

2 奈良県教育振興基本計画(「奈良の学び推進プラン」)が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和4年度末の目標値等(C)	令和4年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策(案)
1. 心と身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	体力の向上	新体力テストA判定生徒の割合15%以上	新体力テストA判定生徒の割合10%以上	新体力テスト結果:該当生徒の割合は8.8%(A判定 全国平均:7.1%)	・A判定の割合が目標に届かなかったのは、新型コロナウイルスで部活動等がこれまで通りにできなかったことが要因と考えられる。 ・測定結果は全国平均とほぼ同等で、昨年度とも大きな変化はなかったが、今後も個々の能力を伸ばさせる必要がある。	・コロナ禍だが、がんばってもらっている。 ・全国平均同等であるのも良い。 ・運動部を含め、体力向上の機会を今後もつくってほしい。	・体育授業時、毎授業の初めに体力を向上させる運動を取り入れる。 ・部活動紹介、部活動体験の充実などを行い、運動部活動の加入率を上げる。
	望ましい運動習慣の確立	運動・スポーツを週3日以上実施する生徒の割合60%以上	運動・スポーツを週3日以上実施する生徒の割合50%以上	アンケート結果:該当生徒の割合は66.6%(全国平均:59.2%)	・体育の授業や運動部の活動によって運動習慣は身に付いてきている。 ・全体結果は全国平均を上回っており、良い傾向である。	・運動の楽しさを味わわせ、健康維持につなげるため、今後も運動習慣の確立に向け、その機会をつくってほしい。	・部活動紹介、部活動体験の充実などを行い、運動部活動の加入率を上げる。 ・体育の授業において運動の楽しさを味わわせる。
	道徳教育の充実	社会の一員として自覚し、自己と他者の生命や人格、多様性を尊重できる生徒の割合100%	自他を尊重し、多様性を受け入れられる生徒の割合80%以上	アンケート結果:該当生徒の割合は96.0%	・今年度はLGBTに関する人権講演会を実施し、性の多様性について学ぶ機会をもてたことが良かった。 ・人権HRについても、年間計画どおりに実施できた。	・LGBT等、多様性を理解する機会を設け、考える時間をもつことが大切で、他者理解という点で、今後も計画的に研修に取り組みしてほしい。	・教育活動全体を通して、互いを大切にし、違いを認め合う心を育む。 ・講演会や体験学習に参加することで、自他を尊重し、多様性を受け入れる大切さについて学ぶ機会をもつ。
2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	生徒の授業満足度80%以上	生徒の授業満足度60%以上	アンケート結果:該当生徒の割合は73.3%	・各教科で授業改善に当たったため、目標値を上回ることができた。 ・全体の4分の1の生徒が授業に満足していないという結果でもあり、改善に向けた検討が更に必要である。	・前向きにアンケート結果を捉えて、主体的に学習に取り組む生徒を育ててほしい。 ・互いに授業参観をするなど相互に研鑽を深めてほしい。 ・報告書を提出するなど、工夫をしながら進めてほしい。	・各学期の授業アンケートの結果を受けて、生徒のニーズを把握し、シラバス等の確認を行いながら、授業を改善する。 ・先生同士の授業参観を設定し、各自の授業に取り入れれたり、工夫したりする機会を設け授業研究を行う。
	基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得	3年次、学習到達ゾーン(GTZ)C2以上の割合60%以上	3年次、学習到達ゾーン(GTZ)C2以上の割合40%以上	実力診断テスト結果:3年生該当生徒の割合は50.2%(2教科(国・英))	・目標値を大きく上回ることができたので、一定の成果を得られた。	・確かな学力をつけてあげることが大切で、GTZという数値にとらわれず、基礎学力の向上を目指してほしい。	・1年2回、2年3回の模擬テスト(希望者)の参加の数を増やし、3年次の実力診断テストにおけるGTZの向上を図る。 ・先生同士の授業参観を設定し、各自の授業に取り入れれたり、工夫したりする機会を設け授業研究を行う。
	学習意欲の向上	授業時間外でICTを活用した学習時間平均、週3時間以上(全生徒平均)	授業時間外でICTを活用した学習時間平均、週2時間以上(全生徒平均)	アンケート結果:該当生徒の割合は27.3%(授業時間外でICTを活用した学習時間が週平均2時間以上の生徒の割合)	・1年生を中心に家庭学習の課題をGoogle Classroomやフォームで提示し、ICTを活用した家庭学習の機会を設定した成果である。 ・BYOD導入の初年度結果としては、上々のスタートであった。	・子どもたちは、今後ICTの中で生きていくことになるので、先生方も今後一層研究に励むと同時に、教材の共有等もしてほしい。	・学習動画や、家庭で行う課題をGoogle Classroomやフォームを通して作成、配信し、ICTを使って学習する機会をさらに設定する。
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	インターンシップの充実	インターンシップ(アカデミックインターンシップ等を含む)参加生徒の割合25%以上	インターンシップ(アカデミックインターンシップ等を含む)参加生徒の割合15%以上	アンケート結果:該当生徒の割合は49.6%	・予想以上に多くの生徒がインターンシップ(アカデミックインターンシップ等を含む)に参加したと回答している。 ・ここでの「インターンシップ」の定義について、生徒が理解できているのか少し疑問が残る。	・このような体験学習については、機会の創出を大切にしてほしい。 ・機会の提供という点では、学校でも検討してほしい。 ・自己理解に結びつくよう工夫してほしい。	・教育研究所や各団体で企画しているインターンシップへの参加を促す。 ・大学等で開催されるアカデミックインターンシップ等への参加を促すとともに、大学・短大、看護・医療系進学説明会を校内で複数回開催し、就業体験等を通して職業観を醸成する。
	キャリア教育の推進	3年次、自分の将来の働いている姿を思い描ける生徒の割合70%以上	3年次、自分の将来の働いている姿を思い描ける生徒の割合50%以上	アンケート結果:3年生該当生徒の割合95.4%(全学年:59.5%)	・目標値を大きく上回っており、3年生の大半が将来を見据えた進路選択をした結果である。	・学年進行で先生方が同じ意識をもって取り組んでいるので、数値が高いのではないかと。 ・今後もステップを踏んで段階的に学ばせていくといった計画的な指導をしてほしい。	・1年:「自分を発見する」とともに「様々な職業を知る」ためのHRなどを行う。 ・2年:「興味のある職業につながる学問」を研究し、オープンキャンパスでの情報を共有しあい、積極的にインターンシップに参加するように促す。

4. 地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティ・スクールの運営	地域活動(清掃活動等)に参加する生徒の割合50%以上	地域活動(清掃活動等)に参加する生徒の割合30%以上	アンケート結果:該当生徒の割合43.3%	・まだまだ高い数字とは言えないが、参加生徒も徐々に増えてきている。	・地域住民にも周知し、これからも活発に取り組んでほしい。 ・他の地域貢献活動も開拓してほしい。 ・自己肯定感をもつ生徒がこのような活動で増えるのではないかな。	・奉仕活動や社会貢献活動の意義を、集会等を通して生徒に周知する。 ・ポスターや放送を用いて、清掃活動への参加を呼びかける啓発活動を継続する。 ・地域の中学校と協働して清掃活動を行うことを通して、地域に貢献するとともに相互の交流を図る。
	郷土の伝統、文化、歴史等に関する学習の推進	郷土の伝統、文化、歴史等に興味をもつ生徒の割合60%以上	郷土の伝統、文化、歴史等に興味をもつ生徒の割合40%以上	アンケート結果:該当生徒の割合41.8% (全く興味がないと回答した生徒の割合20.3%)	・歴史などへの興味をもつ生徒が4割程度という数字は低いのではないかな。 ・全く興味がない生徒が2割存在していることは大きな課題である。	・斑鳩は歴史を学ぶ地として最高で、周りの地域を知る、コミュニティを知ることが大切ではないかな。 ・小中学校へ出前授業を試みるのも良いのではないかな。 ・放課後にいろいろとフィールドワークをさせてはどうか。 ・知識と興味は違うということも念頭におく必要があるのではないかな。	・第一学年の法隆寺見学における歴史文化科による説明を充実させる。 ・ユネスコフォーラムにおける歴史文化科生徒の発表について、他クラスの生徒の興味・関心を惹起する内容に改善する。 ・歴史文化科の特設科目および歴史系統の科目の内容の精選や検討を行う。 ・県内の歴史に関する神社、仏閣や博物館、研究所の展覧会などをポスターなどで掲示して、積極的に全校生徒に周知する。
	グローバルマインドの育成や外国語教育の推進	異なる文化的背景をもつ仲間と情報交換し、課題解決に向けて協働できる生徒の割合60%以上	異なる文化的背景をもつ仲間と情報交換し、課題解決に向けて協働できる生徒の割合40%以上	アンケート結果:該当生徒の割合52.1%	・10月にドイツ姉妹校生徒が来日し、ホームステイや授業に参加し、交流の機会をもてたことが良かった。 ・3月にはオーストラリアの姉妹校を訪れ、交流を図る。 ・帰国、渡日生徒についても在日外国人生徒交流会をはじめ、高校生国際会議等への参加を果たし、生徒の意識も高まってきている。	・新型コロナ対策の緩和で、もう少し数値も伸びていくのではないかな。 ・継続した交流が続いているので、それを維持してほしい。	・姉妹校生を生徒宅にホームステイさせる。また各クラスに迎え入れる。 ・姉妹校との交流を図る。 ・高校生国際会議や留学生との学習会に参加する。 ・HRSC部(人権問題研究会)の活動を活発にする。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	人としての営みの中で必要な人権感覚・知識の涵養	生活の中で差別に気づき、自分の問題として捉えることができる生徒の割合100%	生活の中で差別に気づき、自分の問題として捉えることができる生徒の割合80%	アンケート結果:該当生徒の割合78.0%	・目標値を下回っているが、様々な差別の本質や共通点が理解できれば、日常の差別に気付くことができると思われる。	・生徒の中で差別に気づくことが大切である。 ・数値は日頃からお互いを大切に、安心して生活を送っている表れてはどうか。 ・今後も取組を継続してほしい。	・定期的には人権HRを実施し、身近な差別について学習する機会をもつ。 ・講演会や体験学習に参加することで、人権について学ぶ機会をもつ。 ・人権作文を書くことで、自ら人権について考えさせる。 ・人権についてのアンケートを定期的に実施する。
	学校いじめ防止基本方針に基づく取組の推進	いじめについて相談できる人がいる生徒の割合100%	いじめについて相談できる人がいる生徒の割合80%	アンケート結果:該当生徒の割合89.7%	・生徒同士や家庭でのコミュニケーションがとれていることが関係していると思われる。	・高い数値で良い。 ・友だち同士や先生の寄り添いもしっかりなされている表れてはどうか。 ・引き続き100%を目指してほしい。	・教員と生徒が授業、部活動、クラス等で密に開わり相談しやすい環境を作る。 ・アンケート結果で相談ごとがある生徒をピックアップし、適時相談の機会をもつ。 ・面談週間を設けて相談や悩みごとの解消を図る。
	帰国生徒等一人一人に応じた日本語教育の実施	3年次、日本語能力試験(JLPT)N1取得率70%以上	2年次、日本語能力試験(JLPT)N2取得率60%以上	試験結果:2年生該当生徒の割合66.7%	・日本語上達に向けての学習意欲は旺盛であった。 ・日本語能力試験出願時の支援が必要であることがわかった。	・日本語能力試験出願時のサポートをはじめ、一人一人に応じたサポートが必要で、丁寧なサポートがなされている。 ・先生方の中で、生徒情報の共有を今後も引き続き行ってほしい。	・取り出し授業を通して日本語学習の機会をもつ。 ・一斉授業を受けることで、各科目の専門用語理解を充実させる。 ・日本語能力試験出願時に支援を行う。 ・毎年、日本語能力試験を受験し、日本語能力の伸長を確認する。

### 3 評価結果の分析、今後の改善方策等

全体的に今年度の目標は達成されている項目が多く、教育力向上に向けて計画的に取り組んでいる。改善方策(案)をもとに、今後も指導・支援力の向上に向けてしっかりと取り組んでいく。また、いじめについてなど教員間で生徒情報の共有をしっかりと行い、今後の指導・支援に反映させる。アンケート結果で、「入学してよかった」と回答した生徒は79.3%、「入学させてよかった」と回答した保護者は94.9%であった。生徒の結果については、新型コロナ対策のため学校行事等を制限したことが影響しているのではないかな。